



## ヒグマやエゾシカから 地域を守るハンター

今回は、日頃からヒグマやエゾシカを猟銃などで駆除していただいている道下 志郎さん（写真中央）、佐藤 義信さん（写真左側）、笹井 憲也さん（写真右側）取材しました。

3名は、町民の生命や財産を守るため、また、農作物の被害を防止するため、ヒグマやエゾシカなどの有害鳥獣駆除や、新人ハンターの育成などを行っています。

今年度は、ヒグマ11頭、エゾシカ48頭、タヌキ14頭を駆除しております。（平成31年1月23日現在）

●有害鳥獣駆除とは、クマ・シカ・キツネ・タヌキなど、人間や家畜、農作物に被害を与える動物のことです。

問1. ハンターになろうと  
思ったきっかけは？

◆道下さん

私がハンターになる前はクマを駆除できる方が一人しかおらず、その方が高齢による目の衰えで引退したいとの話を聞いたのがきっかけでした。

◆佐藤さん

道下さんの活動を見て、少しでも自分も役に立つことができればと思ったのがきっかけでした。

◆笹井さん

シカやタヌキが畑や水田、家の近くまで来るようになり、被害も増加しているため、少しでも協力できればと思ったのがきっかけでした。



▲巡視中の道下さん

問2. 普段の活動内容は？

◆道下さん

佐藤さんと笹井さんは仕事の関係で休日しか活動できないため、駆除の依頼や日常の巡視、駆除後の搬出から解体まで、ほとんど一人で行っています。

◆佐藤さん

週末などの仕事が休みの時に、月崎地区を中心に巡視しています。

◆笹井さん

休日に、主に千軒地区の畑や水田を巡視しています。



▲エゾシカ捕獲用の「くくりわな」を設置する様子